

『はじめて読む！海外文学ブックガイド』 <2022年9月「旅」>

越前 敏弥 //〔ほか〕著（河出書房新社 2022.07）

場所：ティーンズ【Y/019/エチ】

本はいろいろな世界へ通じる扉。でも、海外文学はちょっと苦手と感じている方はいませんか？この本はそんなあなたを、まるで弾丸旅行のように海外文学の世界へ導いてくれるかもしれません。

本の紹介をしてくれるのは翻訳家の方々！原文から読み解く作者の意図や、海外文学を読む心構えなど...マニアな視点で紹介されています。

この本を片手に、いつもとは違う読書の旅へ一歩踏み出してみましょう！

『シリアからきたバレリーナ』 <2023年1月「歴史」>

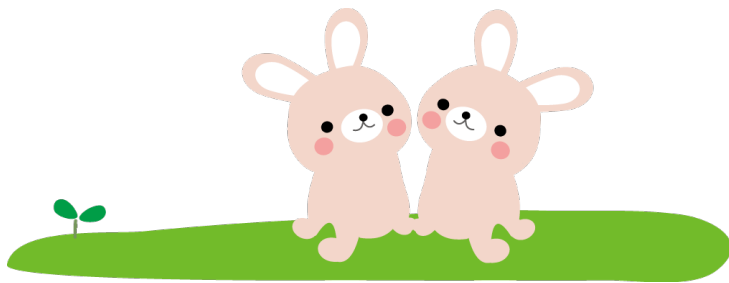
キャサリン ブルートン // 作（偕成社 2022.02）

場所：ティーンズ【Y/933/ブル】

長い歴史の中で戦争は何度もくりかえされ、多くの人が難民となりました。

主人公アーヤも、2011年から現在まで続くシリア内戦の「難民」の一人として描かれています。彼女は今にも爆発しそうな感情を抱えながらも、大好きなバレエを通して、自分の過去や自分自身と向き合っていきます。

この物語は、戦争や難民とは何なのかを問いかけ、親切心や人を受け入れるやさしさが、世界を変えてきた歴史があったことを教えてくれます。



《発行》

関市立図書館 指定管理者 学校法人岐阜済美学院

TEL：0575-24-2529/FAX：0575-23-7780

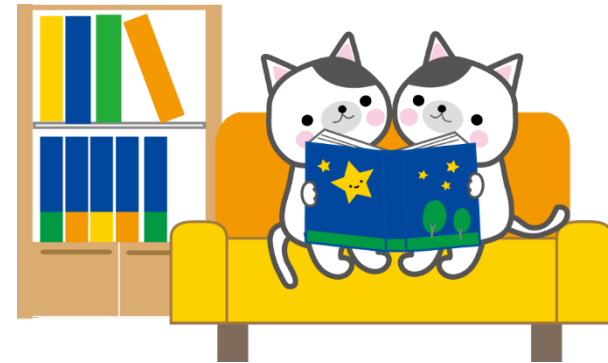
E-mail：lib@city.seki.gifu.jp

司書のおすすめ 《2022年版：こどもの本》

SEKI CITY LIBRARY

BOOK REVIEW

※2022年4月～2023年3月の図書館だよりで紹介した本



『ピーターラビットのおはなし』 <2022年5月「子ども」>

ビアトリクス ポター // 作・絵（早川書房 2022.03）

場所：絵本【E/ピタ】

ご存知の方も多いピーターラビット。このおはなしが初めて出版されたのは1902年です。出版されてから120年たった今でも多くの方に読み継がれています。子どもの頃に読んだ方は石井桃子さんの訳で読まれた方も多いと思いますが、今回は川上未映子さんの訳でちょっぴりちがった味わいになっています。子どもさんと読み比べてみませんか？

『ポレポレゆきのなか』 <2023年2月「冬」>

たしろ ちさと // ぶん・え（大日本図書 2022.10）

場所：絵本【E/ポレ】

あわてんぼうのやぎくんと、お調子者のはりねずみくんと、しっかりもののぞうくんは、3人で雪山にオーロラを見に来ました。夜になり、みんなでオーロラを見るため雪山を登ります。雪山を登る時は「ポレポレ（ゆっくり）ゆきのなか」です。厳しい寒さを我慢していると、頭上に幻想的なオーロラが空一面広がります。

『地球がもし100cmの球だったら』 <2023年3月「環境」>

永井 智哉//文(世界文化ブックス 2022.08)

場所: 児童書【K/450/ナガ】

もし、地球が大人2人で抱えられる100cmの球だったら・・・大きさや視点を変えてみることで、地球で起きている異常気象や森林破壊、温暖化の影響がよりわかりやすくなります。一度壊された環境はなかなか元に戻すことはできません。私たちの地球を守るために家族で環境問題について考えてみませんか。

『雲を知る本』 <2022年9月「防災」>

岩槻 秀明//著(いかだ社 2022.05)

場所: 児童書【K/451/イワ】

雲にはたくさんの形や色があります。この本には、いろんな種類の雲や天気だけでなく、大雨・台風・竜巻などの気象災害や、防災情報についても詳しく書かれています。雲や空を見て天気の変化に気づいたら、危険をさけることもできるかも。

『はるなつあきふゆのたからさがし』 <2022年12月「秋」>

矢原 由布子//作・絵(KTC中央出版 2022.04)

場所: 児童書【K/470/ヤハ】

秋の植物といえばドングリやイチヨウ、キンモクセイなどを思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。もちろん、秋の植物はそれだけではありません。この本には、春・夏・秋・冬のそれぞれの季節に公園などで見ることができる植物が載っています。似ている植物の見分け方や、植物を使った遊び方など情報がもりだくさん。大人も子どもも楽しめる、お散歩に持っていきたい一冊です。

『みんなでまなぼう認知症のこと ③』 <2022年7月「社会福祉」>

平野 成樹//監修(汐文社 2022.02)

場所: 児童書【K/493/チヨ】

大好きなおじいちゃんやおばあちゃんが、探し物ばかりするようになったり、何度も同じ質問をくり返したりするようになったら、家族としては心配になりますよね。65歳以上では、7人に1人の割合で認知症の人がいて、その数は年々増えているそうです。大切な家族が認知症になっても困らないように、正しい対応の仕方をこの本は教えてくれます。ぜひ、一度読んでみてください。

『まるで本物!?あそべる工作 全3巻』 <2022年6月「雨」>

いしかわ まりこ//作(汐文社 2022.03) 場所: 児童書【K/750/イシ】

6月は雨の日も多くなり、おうちで過ごす時間も多くなりますね。おうちで何して遊ぼうかな...と思っているみなさんに、この本をおすすめします!

自動販売機やふくびきのガラガラ、回転ずしにがちゃがちゃ、さらにはクレーンゲームまで、まるで本物みたいに作れちゃいます。もちろん遊ぶことだってできるんです。

夏休みの自由工作にもおすすめ。雨の日はもちろん、この夏、親子で楽しく工作してみたいかが?

『ふゆであそぼう』 <2022年12月「年末年始」>

高橋 京子//監修(国土社 2022.08) 場所: 児童書【K/786/コク】

寒いからとおうちに閉じこもっていたらもったいない!冬しかできない遊びや、冬だから楽しい自然を探して、心も体もポカポカになりましょう。

この本では、準備のいらぬ遊びや、簡単な準備で楽しめる遊びをたくさん紹介しています。お正月にぴったりな凧も、おうちにある材料で簡単に作れますよ。元気に外へ飛び出して、身近な自然と遊んでみませんか?

『じいちゃんの山小屋』 <2022年8月「夏」>

佐和 みずえ//作(小峰書店 2022.06) 場所: 児童書【K/913/サワ】

父親と大喧嘩して、じいちゃんの山小屋でくらすことになった小6の航太。ところがここはスマホも圏外。おまけにじいちゃんは無口で変わり者。それに、子どもは手伝いをするのは当たり前という考えで、航太は山仕事を手伝うことに。夏になると友だちもできて、時には一緒にミツバチの世話を手伝ったり、椎茸の栽培を手伝ったり。そんな航太の山小屋での暮らしを通して、野山の環境について、野生動物との共生について、そして本当の豊かな暮らしとは何か、考えさせられる一冊です。

『のはらクラブのこどもたち』 <2022年4月「春」>

たかどの ほうこ//作(理論社 2022.02)

場所: 児童書【K/913/タカ】

暖かい春の日には、“のはらにおさんぽ”なんてどうでしょう?

このお話の中でも、のはらおばさんとこどもたちがおさんぽに出かけます。みんなは花や草がとっても大好きで、おさんぽしながらワイワイ、ニコニコお話が尽きません。本当に楽しそうで、本から笑い声が聞こえてくるかのようです。

みなさんも、植物図鑑を手にも外に出てみましょう。きっと、いろんな草花たちが遊びに来てくれるのを待っていますよ。